

わかると快感!

Z会ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

銅の生産が日本の経済発展に果たした役割とは?

(東京大学 2001年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!

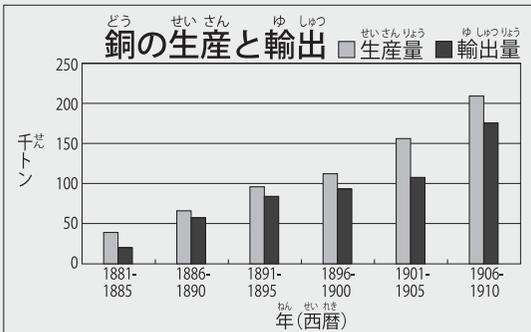


Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

次のグラフを手がかりに、銅の生産が、この時期の日本の経済の発展にどのような役割を果たしたか、説明しなさい。



まず、問題にある「この時期」とはいつのことなのかを確認しましょう。グラフに示されている1881~1910年は、日本では明治時代の半ばから終わりのころにあたります。

1880年代後半からは、産業が次々と誕生・成長し、「産業革命」と呼ばれる時期になります。グラフはその少し前から始まっていますので、産業革命と呼ばれる経済の発展に、銅の生産がどのようにかかわっていたのかを答えればよいとわかります。

江戸時代末の貿易の混乱

時計の針を少し戻して、明治になる前、江戸時代の終わりがどのような経済だったのかという点から確認してみましょう。江戸時代には、中国やオランダなど限られた国としか貿易をしない「鎖国」政策が長く取られていましたが、江戸時代の終わりに、アメリカのペリーが軍艦を連れて来日して国を開くよう迫り、さまざま



イラスト：瑞木匠

良い面、悪い面

な国と貿易するようになりました。

しかし、その際に日本は不平等な貿易のルールを押し付けられ、輸出額よりも輸入額が大幅に多かったことから、日本の品物とお金が海外に出ていき、経済が混乱しました。

明治時代の産業の発展

経済の混乱の中、江戸幕府が倒れ、時代は明治になります。明治政府は、日本を外国に負けない国にするために、産業を大きく育てることをめざしました。この政策を「殖産興業」と言

います。外国から講師を呼んだり、工場を建てたりして、少しずつ産業は育っていきました。

現代の日本では機械や自動車などが輸出品として有名ですが、この時代には綿糸・生糸などが主な輸出品でした。しかし、材料の綿花や、工場などで必要な機械はまだ海外のものに頼らざるを得ませんでした。したがって、原材料や機械の輸入が多かったために、産業が育ってきて、たくさんものを作っても、しばらくは輸出よりも輸入が多い状態が続いていたのです。

その中で、貴重な輸出品として活躍したのが銅でした。問題のグラフを見ると、生産した量のほとんどが輸出されていることがわかりますね。銅を輸出して得たお金で、原材料や機械を購入し、それで作った綿糸などの製品を輸出することで、日本の経済は大きく発展していったのです。

しかし、銅がたくさん生産されたことで、足尾銅山などでは公害問題も起こりました。よい面だけでなく、悪い面にも目を向けることが大切です。【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓

「もの」「サービス」の流れとして経済を見てみると、さまざまな事実や出来事が点でなく、線で見えてきます。



河原井彩さん 2007年にZ会に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。